

17. 第10回インド太平洋漁業会議 (Indo-Pacific Fisheries Council IPFC) (水産海洋学関係)

1962年 10月 韓国 ソウル

Resolution III: 本会議は I O C の決議 # 12、黒潮および付近海域の調査、に留保し且つ漁業問題にかような研究の重要なことを認めて、
(the Investigations of the Kuroshio and adjacent seas)

1. 関心をもつメンバー国に積極的に本調査参加をすすめ、
2. 技術委員会 I に、その Fishery Oceanography 小委員会を通して、本調査計画に参加し、且実施を容易にするよう指令し、
3. I O C 事務局に SEASCO を通じて、黒潮研究のための計画会合を召集する可能性を探るよう要請する。

Resolution IV: “ 本会議は技術委員会 I よりこの会議中の作業の報告を受けて、本報告を採択承認を決議した。 ” “ 本会議は特に Fishery Oceanography および Stock Assessment (ストック査定) の常置小委員会を任命に委員会の発動に賛同し、Rastrellinger, Hilsa, Chanos, 稲田養魚、エビの小委員会の再置されなかつたことと、パネル(顧問陪審員)をつくるべきだということ、提案しなかつたことを記録にとどめた。 ”

同技術委員会 I が Fishery Oceanography についてとつた行動は、次題の決議中に包括される。 “ Fishery Oceanography が、漁業問題研究で重要なことに留意して、且 IPFC 地域内に Fishery Oceanography の比較的欠けていることを認め、さらに水産の仕事をする人と、一般海洋研究に従事する人々との間の、より密接な連絡の大切なことをさとり、次のよう

なはたらきをする a Standing Sub-Committee on Fishery

Oceanography (水産海洋学常置小委員会)が任命されるであろう。

1. 小委員会は、IPFC地域内で次のようにして、水産海洋学の生長のできるようにするだろう。
 - a) メンバー国に漁業問題解決に助力を与えるものなることを指摘。
 - b) メンバー政府に海洋調査に参加を奨励。
 - c) メンバー政府の漁業計画に価値あるべき特別海洋観測に関し、メンバー政府から情報を懇請し、且メンバー政府に示唆を与えること。
 - d) メンバー政府間に、海洋学情報の交換を容易にさせること。
2. 本小委員会はIPFCに対し、FAO、IOC及び又は他の国際的、国内的又は私的研究所と関係をもって、次のようにするため行動するだろう。
 - a) メンバー政府は、漁業生物学者に興味のあるIPFC地域内の海洋調査の詳細につき情報をうけるようにする
 - b) 漁業生物学者は、漁業問題に関して、最大の便益をとげるように海洋調査の計画に参加する機会を与えられるようにする。
 - c) 漁業生物学者は漁業に意義のある観測を行えるためにかような調査に参加する機会を与えられるようにする。
3. 本小委員会は特に次の点に関して、水産海洋学者の訓練のできるようにする。
 - a) 現場の方法に経験を得るため、海洋調査に参加させる。
 - b) 解析と解釈の経験を得るため、データ解析に参加させる。
 - c) 海洋科学のIPFC地域にひらかれる訓練コース、ゼミナール、シンポジウムについてメンバー国に報知する。

4. 本小委員会は海洋学データをメンバー政府に、次のように利用できるようにする。

- a) メンバー政府に現存データ・センターの施設について周知せしめる。
- b) メンバー政府にデータ・センターの内に、彼らの海洋学データの写しを預けおくことを奨励する。

(宇田道隆記)

18. イワシ族魚類からの蛋白質生産の科学面に関する世界会議

(World Meeting on the Scientific Aspects of
Protein Production from Clupeoid Fishes)

[1963年6月 米国ワシントン]

人類栄養不足の主面は蛋白欠乏と、特にある必須なアミノ酸の欠乏である。(a) 10億前後の人々がある程度不足し、その半数が病気が死亡という程度に悩んでいる。(b) 魚蛋白はこれらアミノ酸の優秀な比率のものを、人間の食物要求に対し付与する。(c) 陸からの動物蛋白生産の問題は、特に人間蛋白不足が主要問題なる世界のこれら地域で、重要実質的なもので、大量漁類資源はしばしば付近水域に利用できる。人類の用いる海からの動物蛋白の、主な現在の生産者は、イワシ族(カタクチイワシ、ニシン、マイワシ等)の魚である。蛋白不足の病気が特に顕著な発達する世界の区域に隣接して、存在することの知られる余り用いられない。極めて大きな資源のあることが知られている。